

## 福岡県立香椎高等学校 高

### 自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成

本校は、大正10年に開校した糟屋郡立粕屋実業女学校と、昭和16年に設立された財団法人香椎中学の両校を統合し、昭和23年に校名を現在の福岡県立香椎高等学校とした、歴史と伝統のある学校です。「愛・知・忍」を校訓とし、教育目標「自ら考え、情報を収集・選択でき、主体的に行動する人材の育成・輩出を目指す。」に則った教育を進め、「自主的に行動し、主体的に判断できる生徒」、「身だしなみや礼儀が正しく、明るくさわやかに挨拶出来る生徒」を育てています。

### 1 「観点別学習状況の評価」を本格的に導入するに至った経緯

平成26年度に中学校と地域、入学生に対してアンケート調査を行ったところ、中学校と地域は「進路実績や部活動実績のさらなる向上を期待しつつも現在の校風や伝統の堅持を」望み、入学生が一番頑張りたいのは「勉強」であることが明らかになりました。そこで、上記の教育目標を掲げ、グローバル化した社会で真に通用する能力を身に付けさせるために、教育活動の改善を通じて、生徒の学ぶ意欲と学力の向上に取り組むことにしました。

### 2 観点別評価の導入時

#### (1) 新たな評価法の開発

新たな学力観を見据え、平成27年度に、全教科において、知識の量のみではなく、関心・意欲・態度、思考・判断・表現など、生徒の多様な学習成果や活動を積極的に評価するための観点別評価の充実を図りました。定期考査100点と考査以外の学習活動100点の計200点で各学期を評価し、年間600点満点で総合評価をすることにしました。これに伴い、年間指導計画に各教科の観点別評価項目と評価割合を明記しました。1単位時間の授業や考査で全ての観点を評価するのではなく、全体で生徒を様々な観点で多面的に評価するようにしました。

平成31年度年間指導計画		通し番号 ( - )					
教科	科目	単位数	指導学年	職	氏名	印	
教科書(出版社)			指導学級				
			副教科(出版社)				
評価標準	生きて働く「知識・技能」の習得(知) 【何を理解しているか、何ができるか】	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成(思) 【理解していること・できることなどをどのように使うか】	学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の育成(学) 【どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るか】	評価する資料の例			
年間指導目標	1学期の定期考査の知識・技能点は、40点						
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組:							
道徳教育の観点:							
学 考 査	単元及び指導内容	指導上の留意点	観 点	評 価 基 準	方 法	反 省 及 び 改 善 等 (反省を書いて課題を見だし、その解決に向けた改善策を記入する)	
中間考査			(知)	1学期の中間考査の知識技能点は20点、期末考査で残り20点	a b c d e		
			(思)				
			(学)				

#### (2) 新たな授業形態の完全実施と生徒の声

観点別評価を効果的に実施するために、生徒を観察する場面(活動場面)を意図的に作り出す必要がありました。そこで生徒が主体性を持って活動するアクティブ・ラーニング(AL)形式による授業を進めることにしました。生徒の活動場面の時間の確保には、教員の説明の時間等を削減する必要があったため、ICTの積極的な活用にも取り組みました。生徒からは、「私は体育が苦手でしたが、積極的に授業には参加しました。すると、運動が苦手な私でも評定5をとることができました。感動です。これからは、苦手なことから逃げないで、正面からぶつかっていきましょう。」等の声が聞かれました。

### 3 具体的な授業実践例

全教科の授業で「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組を行っています。ここでは二つの実践を紹介します。

#### (1) 普通科 3年「コミュニケーション英語Ⅱ」

英語によるアウトプットを大切にした授業が日々行われています。また、自己評価や他者評価、教員によるフィードバックを行い、総括的評価に向かうまでの形成的評価を大切にしています。たとえば、自分の考えをスピーチする授業では、生徒がペアになってお互いのスピーチを聞き、気付いたことをアドバイスし合う等、何度も練習する時間を設けています。生徒はペアの相手からアドバイスをもらうことで、分かりやすく説明できているかどうかを振り返って修正したり、何度も練習することで緊張せずに話すことができるようになります。また、各ペアの練習と並行して、担当の教員の前でスピーチする場面も設けており、ペアで練習したことを実際にスピーチして教員からのフィードバックをもらうことができます（写真1）。スピーチの内容や話す様子等のよかったところ、こうしたらもっとよくなるどころ等を教員がフィードバックすることで、生徒は自分のスピーチを振り返るとともに、次のスピーチに生かすことを見いだすことができます。



写真1 英語の授業の様子

#### (2) 普通科・ファッションデザイン科 1年「現代社会」

導入、展開からまとめに至るまで、生徒の思考を大切にした授業が行われています。たとえば、導入では、ICT機器を活用して前時の学習内容に関わるスライド資料を映し、テンポよく質疑応答を繰り返して復習します。前時と同じスライド資料を見ることで生徒は学習内容を想起しやすく、指名されずとも全員が積極的に答えています。

教員は、授業のねらいに応じて、展開の部分での説明と活動の割合を考え、生徒にとって分かりにくい用語があれば身近な例を挙げながら丁寧に説明をしたり、グループで話し合ったことを全体で共有する活動を行ったりしています。

机の配置についても、机を横に並べ、三人組でグループを編成する工夫を行っています（写真2）。これには、聞くことと話し合うことを連続させるねらいがあります。ペアにした場合、十分に話の内容を深めることが難しい場合もあるので三人組にし、机の移動時間をできる限り無くすために机を横並びで付けるなど、言語活動を充実させるための細かい手立てが講じられています。

授業で使用するスライドは、教員が作成したものを同教科の担当者で共有することが可能な体制を取っています。また、授業中の評価については、ループリックを作成して共有しており、「①教科書を読む」、「②板書する」、「③意見を言う・発表する」について①②は黒、③は赤のペンでメモを取ることで、評価の材料にしています。



写真2 現代社会の授業の様子

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

評価法の改善は、学習者である生徒の目線に立った教員の意識改革や、授業におけるICTの活用、生徒同士の意見交換などの主体的学習につながっています。また、生徒の反応も変化し、学ぶ意欲の向上に確かな手応えが感じられるようになりました。特に、自分の意見を他者に伝えたり、他者の意見を傾聴したりする機会が増えたことで、言語活動が充実し、積極的かつ柔軟な姿勢を持つ生徒が育成されました。それにより、学校行事や生徒会活動はもとより、総合的な探究の時間や修学・研修旅行、地域への貢献活動などすべての教育活動において、主体的な活動を通じた学びの転換を図ることができました。

#### (2) 今後の課題

平成30年度告示の学習指導要領で明確にされた三つの資質・能力をバランスよく育成するには、多面的・多角的な評価が必要で、パフォーマンス評価が不可欠です。そこで、学校として全体で、パフォーマンス課題（さまざまな知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような課題）に取り組みさせて、リアルな状況において知識やスキルを使いこなす力を評価できるように、議論を重ね精度を高めていきたいと考えています。